

院内感染対策指針

感染対策に関する基本的な考え方

本院は地域住民への二次医療の充実を提供する病院です。院内感染を未然に防止するとともに、ひとたび感染症が発生した際には拡大防止のために、その原因を速やかに特定して、制圧・終息させることが重要です。このためには、院内感染防止対策を全職員が把握し、病院の理念に則った医療を提供できるようにします。

感染対策に関する組織について

1. 院内感染対策委員会(ICC)
2. 感染制御チーム(ICT)
3. 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)

院内感染対策のために上記3つの組織を設けています。それぞれの組織は他の組織と柔軟かつ積極的に連携することを心がけています。

感染対策委員会: 感染対策に関する諮問機関であり、然るべき事項を審議・決定する組織です。

感染制御チーム(ICT): 感染対策部門に属する組織で、職種・組織横断的に院内の感染状況を把握し、その対策を行う実動組織です。

抗菌薬適正使用支援チーム(AST): 抗菌薬使用状況の把握とその適正使用推進を目的として活動する組織です。

感染対策に関する職員研修について

院内感染防止対策の基本的な考え方及び具体的方策について、年2回以上職員研修を開催します。

院内の職員に感染防止対策を周知徹底することで、個々の職員の院内感染に対する意識を高めます。研修内容は、院内の実情に即したもので、職種横断的な参加の下に行います。

感染症の把握および報告について

院内で発生した感染症の発生状況や原因に関するデータを継続的かつ組織的に収集して、的確な感染対策を実施できるように、各種サーベイランスを実施します。耐性菌サーベイランス(週1回及び月1回、臨床検査室より全部署へ報告)

1. 伝播力が強く、院内感染対策上問題となる各種感染症サーベイランス
2. 外来・入院病棟におけるインフルエンザ迅速検査数及び陽性者数のサーベイランス
3. カテーテル関連血流感染、尿路感染などの対象限定サーベイランス

その他、職員の感染症発生状況を把握し、院内感染対策に役立てます。

院内感染拡大防止には早期発見が重要です。職員には異変に気付いた場合は感染制御チームに報告するよう指導しています。感染制御チームが中心となって、院内の感染状況の監視を行っています。

感染症発生時の対応について

アウトブレイクあるいは異常発生時には、臨時に院内感染対策委員会、または感染制御チーム会を開催し、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し、実施するために全職員への周知徹底を図ります。またその状況及び患者への対応等を病院長に報告します。

重大な院内感染等が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、又は発生した事が疑われる場合には、地域の専門家等に相談します。

報告の義務付けられている病気が特定された場合、またアウトブレイクあるいは異常発生と判断した場合は速やかに保健所へ報告します。

抗菌薬適正使用について

広域抗菌薬等の特定の抗菌薬を使用する患者、菌血症等の特定の感染症兆候のある患者、免疫不全状態等の特定の患者など感染症早期からのモニタリングを実施する患者を設定します。

モニタリングを実施する対象患者を把握後、適切な微生物検査・血液検査・画像検査等の実施状況、初期選択抗菌薬の選択・用法・用量の適切性、必要に応じた治療薬物のモニタリングの実施、微生物検査等の治療方針への活用状況などを経時的に評価し、必要に応じて主治医にフィードバックを行います。

適切な検体採取と培養検査の提出（血液培養の複数セット採取など）や施設内のアンチバイオグラムの作成など、微生物検査・臨床検査が適正に利用可能な体制を整備します。

抗菌薬使用状況や血液培養複数セットの提出率などプロセス指標及び耐性菌発生率や抗菌薬使用などのアウトカム指標を定期的に評価します。

患者等への情報提供と説明について

本指針は、患者または家族が閲覧できるように掲示します。また、当院ホームページにも掲載します。

疾患の説明とともに、感染防止の基本についても説明して、理解を得た上で、協力を求めます。

その他院内感染対策の推進について

職員は、感染対策マニュアルに沿って、手指衛生の徹底、マスク着用の励行など常に感染予防策の遵守に努めます。

職員は、自らが院内感染源とならないよう、定期健康診断を年 1 回以上受診し、健康管理に努めるとともに病院が実施する B 型肝炎、インフルエンザワクチン等の予防接種に積極的に参加します。

職員は、感染対策マニュアルに沿って、個人用防護具の使用、リキャップの禁止、真空採血管ホルダーの利用など職業感染の防止に努めます。

職員は、院内感染の発生状況を把握するため、院内における感染症の発生動向の情報を共有することで、院内感染の発生の予防及びまん延の防止を図ります。

院内感染対策マニュアルを整備する等、その他の院内感染対策の推進のために必要な改善策を図るとともにそれらを定期的に見直しします。

本指針は、院内感染対策委員会の議を経て策定及び変更します。